

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	0	1	百日咳	0	0
RSウイルス感染症	23	43	ヘルパンギーナ	5	8
咽頭結膜熱	33	32	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	13	16
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	67	52	急性出血性結膜炎	0	2
感染性胃腸炎	964	899	流行性角結膜炎(はやり目)	13	12
水痘	83	61	細菌性髄膜炎	1	0
手足口病	33	28	無菌性髄膜炎	0	1
伝染性紅斑(りんご病)	1	1	マイコプラズマ肺炎	5	2
突発性発しん	31	54	クラミジア肺炎	0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- 水痘
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

- 感染性胃腸炎は、報告数964件(前週報告数899件)と増加。地区別では、菊池、山鹿、有明に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の148件を最多に幅広い年齢層からの報告です。
- 水痘は、報告数83件(前週報告数61件)と増加。地区別では、八代、菊池、有明に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の22件を最多に8歳以下からの報告です。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、報告数67件(前週52件)と増加。地区別では、菊池、熊本、人吉に多く報告がみられます。年齢別では、5歳の12件を最多に主に10~14歳以下からの報告です。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所		4	13	43	306	19	13		11		1	8		10	1			3
山鹿保健所					72				3					*	*			
菊池保健所		4	6	11	148	14	6		4			3		1				
阿蘇保健所					9								*	*				
御船保健所					17								*	*				
八代保健所		6	4	4	73	30	2		1									
水俣保健所					2								*	*				
人吉保健所				6	63	4							*	*				
有明保健所			4		176	9	6		3			1		1				
宇城保健所		8		1	64	4	4	1	1		2	1		1				
天草保健所		1	6	2	34	3	2		8		2							2
計	0	23	33	67	964	83	33	1	31	0	5	13	0	13	1	0	5	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上
インフルエンザ	0																				
小児科定点年齢	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20歳以上						
RSウイルス感染症	23	1	7	10	1	3		1	2	2											
咽頭結膜熱	33		5	9	5	2	1	3	1	2	2		1		2						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	67			1	2	8	6	12	7	10	10	3	5		3						
感染性胃腸炎	964	7	59	148	111	84	104	76	72	47	44	39	70	23	80						
水痘	83	2	8	22	10	19	8	4	5	3	2										
手足口病	33		3	16	8	2	2	1		1											
伝染性紅斑	1												1								
突発性発しん	31		15	15	1																
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	5		1	1		2		1													
流行性耳下腺炎	13					1	4	1	1	2	3	1									
眼科定点年齢区分	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	13			1											3	5	2	2			
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上				
細菌性髄膜炎	1									1											
無菌性髄膜炎	0																				
マイコプラズマ肺炎	5		1	1	1							1						1			
クラミジア肺炎	0																				

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

感染性胃腸炎

山鹿、菊池、人吉、有明、宇城

**感染性胃腸炎が
警戒レベルです!**

今週の報告数は964件で、警戒基準値を超えました。今後更に流行する可能性があり警戒が必要です。全国的にも患者が増加しており、前週の報告では、宮崎、福岡、大分、大阪に次ぎ5番目の多さでした。症状は、発熱、下痢、吐き気、嘔吐、腹痛などです。子供の場合、元気がなかったり、不機嫌な状態が続く時はすぐに主治医の診察を受けてください。家庭では脱水を起こさないよう、水分補給に努めましょう。原因には様々なウイルスや細菌などがありますが、これからの季節はウイルスを原因とするものが増加します。中でもノロウイルスは感染力がきわめて強く、医療機関や社会福祉施設、学校など集団生活の場で流行を起こすことがあります。下記のポイントを参考に、しっかり予防に努めてください。【ノロウイルスを予防する4つのポイント】

- ①生ものは極力避け、85℃で1分以上加熱調理しましょう。
- ②調理の前後、トイレやおむつ交換の後などは、必ずせっけんを手を洗きましょう。
- ③調理器具の使用後は、ときどき次亜塩素酸ナトリウム(塩素系漂白剤)に浸して殺菌しましょう。
- ④嘔吐物や便を処理するときは、マスクと手袋を着用し、周りを汚染させないようにしましょう。